

## &lt;30-04&gt; 令和2年度京都府普及指導活動外部評価結果

課題名	需要に応じた水田農業の推進	ものづくり ・販路づくり	中丹東農業改良普及センター 中丹西農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） ①おいしい米づくりの推進と産地PR支援 ②需要に応じた「京の輝き」の生産安定化 ③排水対策等による特産小豆の生産安定化		(2) 普及指導対象 ①良食味米研究会（26戸）、良食味志向生産者（65戸）、玄米品評会出品者（13戸） ②「京の輝き」大規模生産者のうち生産が低迷している10戸 ③大規模機械収穫生産者（13組織・1戸うち重点対象組織5組織）	
(3) 活動内容と成果			
<p>① おいしい米づくりの推進と産地PR支援 JA等関係機関と連携して基本技術の励行や病害虫の情報を速やかに現場へ伝達した。中丹米のPRを行うため、京のプレミアム米コンテストを周知し参加を促した。平成30年度には、食味値が高かった生産者10戸を選定して良食味米展示ほ場とし、生産者への聞き取り結果に基づく良食味米栽培のポイント集を作成・配布した。令和元年度には、京のプレミアム米コンテスト出品者に対し、上位入賞を目指す勉強会を実施した。また、中丹地域の良食味志向生産者が百貨店の販売イベントに参加した。令和2年度には、統一した指導によって食味向上を産地全体に広げるため、JA職員を対象に勉強会を開催した。また、PRパンフレットを作成し、直売所等で配架することで中丹米の知名度向上に努めた。これらの結果、良食味米生産に向けて産地全体へ統一した指導が可能となり、生産者の良食味栽培に対する意識も高まり、生産現場で水管理や防除等が適正に実施された。また、コンテストの出品者が活動前の7倍となった。</p> <p>② 需要に応じた「京の輝き」の生産安定化 土壌還元化に起因する初期生育不良と幼形成期の肥効不足が低収の主要因と捉え、初期の水管理と施肥改善について重点的な技術指導を実施した。水管理等基本技術の励行のために、技術情報を発行（3回/年）し、ほ場巡回及び個別指導を徹底した。土壌還元化対策としてのワラの早期すき込みや落水、幼穂形成期の肥効不足対策として追肥診断アプリ「RiceCamS」の活用や流し込み追肥等について、提案・実演を行う研修会を実施した。品質及び収量調査を実施し、調査結果を基に対策の有効性を示し、次年度の栽培に反映させた。その結果、多くの生産者が栽培の基本技術を実行し、省力的に追肥を実施するなど栽培に力を入れる生産者も見受けられ、結果としてほとんどの生産者が契約数量を達成した。</p> <p>③ 排水対策等による特産小豆の生産安定化 重点対象組織に対し、作付予定ほ場を確認しながら低収要因の検討を行い、組織やほ場に応じた排水対策、獣害対策、雑草対策を提案した。基本栽培技術（特に排水対策）の徹底を図るため、技術情報を発行し、重点対象組織へ新たに導入する排水対策を提案した。重点対象組織の結果等を共有し、基本栽培技術励行及び排水対策を実施することの動機づけを図った。R2年度は梅雨明けが遅れ、は種が遅れたため、播種密度を高めるなど収量確保のための技術を指導した。その結果、産地全体で基本技術が徹底され、収量の向上が見られた。重点対象者では、排水対策や雑草対策に改善が見られ、活動前に比較すると収量が向上した。</p>			

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
<p>&lt;対象の問題解決のため効果的なねらいと働きかけになっていたか&gt;</p> <p>プレミアム米コンテストへの参加を通じて生産者の意識向上を図る効果的な働きかけだったと評価できる。</p> <p>特別栽培米等おいしい米づくりにより販売価格にも連動する取組が必要ではないか。</p> <p>大型農家で平均反収以上の収穫ができる技術の普及が大切である。</p>	<p>次年度以降京式部のブランド化のため特別栽培米の安定した生産体制づくりを進めていく予定であり、中丹地域の良食味米生産者が収入を確保できるよう努めていきます。</p> <p>次年度以降京式部の支援を進めていく中で、コシヒカリ等の既存品種も含めて大規模農家の反収が不足している要因についても追求し、具体的な対策を指導していきます。</p>
<p>&lt;働きかけ（活動）によって導かれた対象は、目指す姿に到達したか&gt;</p> <p>参加人数、参加回数の成果指標は単純すぎるのではないか。おいしい米づくりにおける安定生産においても生産量、反収等の調査を望む。</p> <p>米については、技術情報の適切な提供を通じて、対象の意欲を高めることができたが、高い品質が価格や地域ブランドのPRまで直結できたかどうか見えてこなかった。</p> <p>収量についても年々増えていて成果がでているが、要望数量達成まで頑張ってもらいたい。</p> <p>小豆については、技術対策として整理が仕切れていない状況であり、対象がどのように変わったのか量り知ることができない。</p>	<p>生産者の産地PRへの意識向上を目的に活動していましたので参加回数、人数を成果指標としていました。今後の活動では、京式部を中心として収量や品質の確保に向けた指導を実施していきます。</p> <p>良食味米の販売については、生産者個別のものやJAによる一律の販売となっており、価格面には反映しづらい状態です。ただし、プレミアム米コンテストの上位入賞者では注文が増加するなどの効果はあると聞いています。</p> <p>コロナ禍で要望がどう変化していくかわからない現状ではありますが、今後も関係機関で連携しながら要望数量達成に向けて支援を継続していきます。</p> <p>小豆については課題が多い中、基本技術を励行しましたが、一部収量向上につながらなかった生産者もあり、排水対策を中心にさらにきめ細かい指導が必要です。雑草対策については、体系的な対策を整理し普及を図りましたが、さらに浸透を図っていきます。</p>

<p>&lt;それは成果指標に表れているか&gt;</p> <p>近年の夏の猛暑が厳しく、良質米生産には栽培管理上の限界が考えられる。高温耐性のある京式部も開発され、新たなブランドの構築をぜひ実現してほしい。</p> <p>小豆については、作付前のほ場選択から指導しないと産地化は難しいのかも。</p>	<p>次年度以降の普及計画で京式部を取り上げ、収量及び品質を確保できるよう支援していく予定です。また、農産課とも連携し、ブランドの確立についても進めていきます。</p> <p>小豆については、ほ場選択から指導はしていますが、地域の事情等により思うように選択できない背景があります。そのため、現在選択されている農地で収量の確保ができるよう指導していきます。</p>
<p>&lt;課題解決に向けて関係機関と連携した取り組みがされていたか&gt;</p> <p>関係機関との連携した取組において、ほ場等の現地指導においては普及センターが行い、PR イベントは、JA 京都丹の国、JA 京都のみで行われているが、しっかり連携した取り組みになっているのか。</p>	<p>現地指導やPR イベントのどちらも普及センターとJAが連携して行っています。また、定期的に打ち合わせを行い、講習会の開催や技術情報の発行などしっかり連携しながら取り組んでいます。今後につきましても継続して関係機関と連携し、産地の支援をしていきます。</p>
<p>&lt;総合コメント&gt;</p> <p>他産地と相対化して問題意識をもってもらうことで生産意欲を喚起してほしい。</p> <p>新品種「京式部」の導入に当たって、これまで蓄積した栽培技術を生かしてほしい。安定生産の普及も期待する。</p> <p>小豆はほ場環境に起因する問題点もあると考えられ、営農レベル以外での対策を講じることの必要性について、意見を醸成して行く必要があるかもしれない。</p> <p>米が市場でどう評価されるかを具体的にフォローしないと、若い経営者達は着いてこないのではないか。</p> <p>農家の収入を上げるため、今までにない発想でのお米の食べ方、使い方の提案や機能がうたえたりしないものか。</p>	<p>他産地の栽培管理や収量・品質の状況を収集して現状を比較し、生産者に情報提供することで、生産意欲の向上を目指します。</p> <p>京式部についてはJAとも連携しつつ、これまで取り組んできた水稻の高温対策や品質向上のための栽培技術と組み合わせで普及展開していきます。</p> <p>小豆についてはほ場環境に起因する問題点も多いのは事実ですので、JAや試験研究機関と相談しながら今後の対応を考えていきます。</p> <p>次年度以降の取組で次世代の担い手候補となるオペレーターなどを対象として支援していく予定です。その中で米の評価についても取り上げていきたいと考えています。</p> <p>京式部が来年度から新たに栽培されますので、生産者の収入向上に向け</p>

	<p>て支援をしていきます。お米の食べ方については研究が進んでいるので新たな提案はかなり難しいと思いますが、収入向上につながる新たな発想について関係機関と連携していく中で協議していきます。</p>
--	--